

平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

Bあきた教養講座

B4～6：秋田の歴史

会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】地元の大学教授などによる秋田の歴史に関わる専門講座です。古代の東北、近世の水運、秋田藩の藩政改革の3テーマについて、専門の研究の成果を一般向けに講義します。歴史の醍醐味を堪能していただける講座です。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
B 4	10月22日 (土)	古代国家と東北	秋田大学名誉教授 熊田亮介氏	73
B 5	11月12日 (土)	近世の水運と秋田藩	秋田大学教育文化学部 教授 渡辺英夫氏	91
B 6	12月3日 (土)	近世国家と藩 ～戦後歴史学と郷土史～	歴史科学協議会 会員 金森正也氏	89
合計				253名

3名の先生方の講演は、申込者が合わせて370名で、人気の高さをうかがわせます。秋田の歴史について学び続ける方々でいっぱいの講堂は、学習を深め学んだことを次代へつなげようとする意欲に満ちた受講生の熱気に包まれていました。

ここでは、3回目の講座について報告します。

この講座は、講師ご自身が、日頃、お考えになっていることから始まりました。2008年、ご出身の早稲田大学で行われた歴史学研究会大会近世支部会でのこと。「秋田藩についての説明がなければ議論にならない、誰も秋田のことなんか知らないのだから」という意見に対し、ご本人は「地域史の研究の必要性があるかどうかは自分には分からないが、地域で研究している者は、中央の学界に奉仕するためにやっているわけではない」と答えたそうです。歴史や文学を研究している者はイデオロギーを抜きにしては語るができない、ともお話ししておりました。



「近世国家と藩」については、大きく三つに分けてご講話いただきました。一つ目は、「幕藩体制」の国家としての特質です。石高性、兵農分離、海禁政策、基本的な階級矛盾等を基本要素としてあげられました。二つ目は、藩体制(藩政)の確立です。秋田藩が3度領内検地を行ったことや幕府に対する軍役が確定したこと等を史料に基づいてお話しされました。三つ目は、近世国家の動揺です。幕藩政改革では、秋田藩での動きを主導する金易右衛門等の優れた人材や鎖国体制、一揆への対応を説明されました。また、戦後歴史学と郷土史研究では、地方史研究の意義についてもお話しされました。3講座とも、講師の先生がたくさんの史料を準備してくださり、次回を熱望する受講生の声が聞かれた講座ばかりでした。